

西之内町地車新調 実行委員会通信

2021年
9月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072-444-7712

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介(5) ↳ 転職人生の塙団衛門直之

美味しい秋の味覚に、暑さで疲れた体が元氣を取り戻すこの頃、西之内町の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

今回も新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。講談や戦記物語でも人気のある、破天荒な人生を全うした、塙団衛門直之(ぼんだんえもんなおゆき、以下「直之」)の場面です。

直之は、尾張国の人で織田氏の家臣・塙直政の一族か縁者とする説がありますが、遠州横須賀衆で浪人となった須田次郎左衛門という人物であるという話や、上総国養老の里の出身で千葉氏の家来だったが、「地黄八幡」の旗印で知られる北条綱成に仕えたという話、相州玉縄城主となった北条左衛門大夫の徒士となったという話もあり、出身地や素性について、はっきりとした資料は残念ながら残っておりません。獵夫より身を起して織田家臣の坂井政

尚の馬卒となり、功をあげて織田信長に士分として取り立てられたが、酒を飲むと暴れ出すという悪癖のために人を殺めてしまつて放逐され、浪人となって諸国放浪したという話があれば、前述のように北条綱成の家臣であったが、小田原合戦の後に浪人となったとする話もあり、または、小早川隆景の家臣・瀧権右衛門に仕えて二百石の知行を得ていたが、浪人となって貧窮し、豊臣秀次の家臣・木村重茲の小姓達が憐れに思い、衣類を揃えてやつて加藤嘉明に口添えしたという話もあります。幾つかの話には浪人中は時雨左之助(しぐれさ

のすけ)と名乗つたとされるなど、その生い立ちに関しても確たる資料もなく謎めいている人物であることが後世の人氣につながっているのかもしれない。

その後、豊臣秀吉の家臣で伊予国松山の大名となった加藤嘉明に召し抱えられたことは、それぞれの話でようやく一致してきます。朝鮮の役では、嘉明が四尺半の青い絹の真ん中に日の丸を描いた旗印をこしらえさせたが、この旗手を近習の推薦で歩小姓であった直之に任せることとし、直

之はこの目立つ旗を背負つて活躍し、度々武功をあげて、三百五十石の知行を得ます。漆川梁海戦で、敵の番船三艘を八名で乗っ取るという手柄も上げています。戦役後、一千石の知行をもらう鉄砲大将に出世し、その際に地位に相応しく、塙団右衛門直之と改名したといわれています。

しかし慶長五年の関ヶ原の戦いの時に、鉄砲大将を任されながら、命令を無視して勝手に足輕を出撃させたため嘉明の勘氣を被り、「将帥の職を勤め得べからず(〓お前には将の役目を勤める能力がない)」と叱責されました。これに憤慨した直之は、「遂不留江南野水 高飛天地一閑鷗(〓小さな水に留まることなく、カモメは天高く飛ぶ)」との漢詩を、書院の大床に貼りつけると、禄を捨てて出奔しました。一方、漢詩を見た嘉明も激怒し、奉公構(ほうこうかまい)を出して、直之が諸侯に雇われることを妨害しました。ここから、直之の目まぐ

るしい転職人生が始まります。

小早川秀秋は嘉明よりも格上のために遠慮せずに奉公構の身である直之を召し抱えて、一千石の知行を与え鉄砲大将に任命しました。しかし、慶長七年十月の秀秋の死去により浪人となりました。次いで小笠原吉光の知遇を得て、徳川家康の子息である松平忠吉に仕えました。こちらも慶長十二年三月に死去して、再度浪人することになりました。次いで福島正則が馬廻として召し抱えて一千石の知行を与えていましたが、名古屋城築城の際(慶長十四年)に、嘉明が正則に奉公構を守るように迫つたために、直之は罷免されました。

この様な経緯から任官を諦めて、妙心寺の大龍和尚のもとに寄宿し、一時期は剃髪して仏門に入つて「鉄牛」を称しましたが、刀脇差しを帯びた姿で鉢をして檀家の不興を買つたという逸話もあります。

大坂の役が始まる前に、豊臣家の旧恩を抱いて大坂城に入

城しようとした際に肥田志摩という人物から関東方に加わるように勧められます。しかし直之は『関東方は、人数がおびただしいので、随分と勝れた武功を上げないと出世が覚束ない。しかし、大坂方では、士が少ないので、某ごときの者までも、一手の大将を任せてもらえたら骸の上までも本望の至りである。止めるに及ばず』と言って断ったといえます。

新調地車の腰周りでは、直之の波乱万丈な人生を物語る壮絶な合戦の場面を表現しております。大坂の陣で着用していた甲冑も再現しており、場面の構成も、ひと工夫しております。

新調地車の彫り物
進捗報告

脇障子、大脇の下絵を手掛ける

九月に入り土呂幕までの連子関係の荒彫りまで完了しております。正面の土呂幕は、登場人物も少し多めになっている構図で奥行も十分にある見ごたえのある作品です。順次素削り、刻みの作業を手掛けております。

また、地車見送り部分も下絵作業から荒彫りの作業に移行しており、年内には脇障子、大脇、松良といった地車の骨格部分に付随する主要な箇所の着手を目指しております。

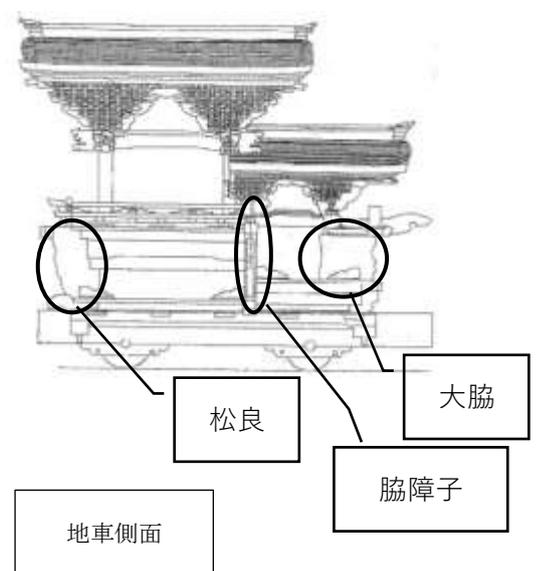
これらの部分は難波戦記の中でも、史実か言い伝えの物語かを選択し、また、歌舞伎演目の場面も取り入れるかどうかを検討した上で下絵に取り掛かっております。その他、大坂の陣は難攻不落の大坂城を舞台にした合戦であるため、隧道を掘って相手方を攪乱したという逸話から描かれた『滑稽浪速名所…さなだ山』に做ったところも取り入れ、洒落を利かせた部分もございます。

新調委員の独り言

新調地車の完成まで、残り二年（入魂式は未定）を切り、彫刻などの着手スケジュールもほぼ確定しつつあります。ようやく何かしら目途が立っただと感じています。完成が間に合わなかったらとか、完成を急ぎ中途半端な地車になったらと不安な日々の中でした。

来年は地車の装飾品も少しずつ完成し段階的に皆様にお披露目できるよう計画したいと思っております。

新調太鼓も現在は胴の木の乾燥段階です。制作場の状況などを見学する計画もしております。これから各部分の完成が重なり、全体像が少しずつ見えてくると思います。今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。



塙團衛門直之（武者絵）

